

レクチャー! レポート! ディスカッション!

# ケア? 活動? 創作?

障害者アートをのぞいてみる

受付開始  
9月30日(金)

日時 2022年11月13日(日) 入場無料

13時～16時 受付開始 12時40分

会場 福井市美術館 アートラボふくい 3F講堂

福井市下馬3丁目1111 [ハートフル駐車場・多目的トイレ・授乳室完備]

定員 30名(申込先着順)

対象 障害者のアート活動に関心のある方、支援をしている方、障害を持つ方の保護者、行政および福祉施設関係者、アート活動を取り入れたい方、アート活動に参加したい方、アーティスト、愛好家など

## プログラム

レクチャー① 障害者とアートのあいだのほんとのところ? 米田 昌功  
レクチャー② 作品が社会をひらく。「ものと語り」の現場から。角地 智史  
事例報告 素敵! だから飾りたい ムラタクンと僕の店  
民族音楽屋ココペリ店主 堀 建一

★後日、当フォーラムYouTubeチャンネルにてアーカイブを配信します。

お申込み ホームページまたはお電話にてお申込みください。

- 1 福井芸術・文化フォーラムのホームページ内「みなぶたフォーラムvol.2」参加申込フォームから
- 2 電話 0776-23-6905  
(月～金12:00～18:00/土日祝休)



みなぶたフォーラム  
vol.2ページ

この催しは、新型コロナウイルス感染症対策を講じて実施いたします。  
今後の感染状況により、催しの内容や実施方法を変更する場合がございます。

fukuigeibun fukuigeibun @fukuigeibun @fukuigeibun

主催・お問合せ：NPO法人 福井芸術・文化フォーラム Tel:0776-23-6905 (月～金12:00～18:00/土日祝休) Fax:0776-23-7905

〒910-0018 福井市田原1丁目13-6フェニックス・プラザ4F E-mail: geibun@geibun.info HP: www.geibun.info

共催：東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター

後援：福井市、福井市教育委員会、(福)福井県社会福祉協議会、(福)福井市社会福祉協議会、福井新聞社、FBC、福井テレビ、FM福井、福井ケーブルテレビ さかいケーブルテレビ、福井街角放送、たんなんFM79.1MHz

13:05  
~  
13:50

レクチャー① 米田 昌功

## 障害者とアートのあいだの ほんとのところ？

障害者アートの捉え方について基本的事項を押さえながら、創作の最前線で起きていることを事例をもとに共有します。創作の現場で起きているさまざまな「変化」について知る機会となります。



米田 昌功（よねだ まさのり）

ぱーと◎とやま  
アートNPO工房ココベリ代表  
美術作家

2006年に現NPOの前身となる知的障害者を中心とした絵画グループを開設。美術からの視点を軸とした支援活動やアートイベントの企画運営に取り組んでいる。2017年には25年間務めた特別支援学校を退職し、支援センターを設立。美術集団「人人（ひとひと）展」会員。

14:00  
~  
14:45

レクチャー② 角地 智史

## 作品が社会をひらく。 「ものと語り」の現場から。

障害者アートは、現在、創作環境を整え作品を社会に送り出す人々が、作品の「語り手」となり、作家を代弁する大切な役割も担っています。「作り手」と「語り手」の関係性から生まれる表現やその価値について、具体的事例を挙げ考察します。また、日本の障害者アートが過去にどのように語られ、展開されてきたのか、あるブームについても言及します。



(c) hitoshi tanaka

角地 智史（かくち さとし）

新潟県アール・ブリュット・サポート・センター（NASC）アートディレクター

2013年新潟大学工学部人間工学科卒業。2016年、障害者アート支援活動モデル事業である「新潟県アール・ブリュット・サポート・センター（NASC）」発足とともに現職に就く。2020年には日本博での展覧会「アール・ブリュット-日本人と自然-in東海北陸」のキュレーターを務めるなど、新潟県のアート支援ネットワークの中心として、アートと福祉の垣根を越えて各種事業の企画、運営に取り組んでいる。また「水と土の芸術祭2018」では写真家として、障害とアートに関するプロジェクトを担当した。

14:55  
~  
15:55

事例報告 堀 建一

## 素敵！だから飾りたい ムラタクンと僕の店

世界各地の民族楽器を取り扱う店「ココベリ」（坂井市三国町）に、紙ロボット作家ムラタクンの常設ギャラリーがあります。

作品に魅了された堀さんに、ギャラリー開設までの経緯や地域との関わりについて話していただきます。後半は、会場の皆さんと地域で（障害のある）作家の活動をどう支援・応援していけばよいのかを考えていきます。



堀 建一（ほり けんいち）

民族音楽屋ココベリ店主

福井県内で22年間繊維業界に携わり退職後、民族楽器のネットショップ「民族音楽屋ココベリ」を2020年に開業。2021年3月坂井市三国町に実店舗を開店。2021年7月より店の一角を紙ロボット作家ムラタクンの常設ギャラリーとして提供。現在、ムラタクンが月1回公開制作をしている。アンデス音楽、ムビラ奏者等のアーティストのライブも主催している。



紙ロボット作家ムラタクンの作品



## 障害者の芸術活動に関する 法律があることご存じですか？

障害者の文化芸術活動を支援する動きは、国の「障害者の芸術活動支援モデル事業」（2014年）を皮切りに活発化し、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」（2018年）が公布・施行されました。障害の有無にかかわらず創造・享受できるという文化芸術基本法、障害者基本法の基本的な理念にのっとった法律です。

当フォーラムでは障害者アートに関する次のような活動をしています（一部抜粋）。

- 2014年 フクイ夢アート2014自主企画展ムラタケ
- 2016年 ハナスバ2016 脳熱（のうちゅん）な感じ誰か一緒に体験しない??  
ー民間発の小さなアール・ブリュット展からみえたことー
- 2017年 ハナスバ2017 音楽は聞くものなのか?  
ー無音のアート・ドキュメンタリー映画「LISTEN」から考えるー
- 2018年 ハナスバ2018 ワーク×ライフ＝幸福?!  
アートがしかける仕事と生活のよりよい関係
- 2019年 視覚や聴覚に障害のある人が文化施設に安心して来られるための  
アクセシビリティ研修



ムラタクンと常設ギャラリー  
in ココベリ